

平成20年度 指定管理者モニタリングレポート

施設名	四日市市障害者体育センター
所在地	四日市市西日野町4070番地1
指定管理者	名称 特定非営利活動法人 障害者福祉チャレンジド・ネット 代表者 理事長 山本 征雄 住所 四日市市小林町3017番地8
モニタリングの実施方針・方法等	本施設の管理運営業務の確認にあたっては、管理運営状況を事業報告書、実地調査、指定管理者へのヒヤリング等により把握しました。 その後、指定管理者の選定に用いた選定基準等に示された項目ごとに、次葉の通り、具体的な業務の履行状況等についての確認結果をコメントしたうえで、「モニタリングの総合コメント」及び「今後の業務改善に向けた考え方」を記載しました。
担当部課 (問合せ先)	福祉部障害福祉課 TEL：059-354-8171 E-mail：syogaifukushi@city.yokkaichi.mie.jp

■ モニタリングの総合コメント

四日市市障害者体育センターの管理運営状況については、障害者のスポーツ振興を図り、その自立と社会参加を促進するという施設の設置目的を達成し、指定管理者制度導入の目的である障害者スポーツの促進と経費の節減も果たしています。また、施設の維持管理も適切に行われていることから総合的に判断して良好と評価します。

管理運営については、利用者数及び収入が増加し、おおむね計画どおり運営されました。

業務内容については、条例・規則を遵守し、募集要項、仕様書等に定める業務を適正に実施されました。

独自の取り組みとして、障害者の視点に立った対応が多く、良好に運営されました。また自主事業を開催するなど、施設を地域の社会資源として有効に活用されていました。

経費については、利用者視点にたった安全性確保、利用環境維持のための保守管理に経費が投入されました。

■ 今後の業務改善に向けた考え方

今後の業務改善については、以下のとおり、市の運営方針を指導していきます。

- ・当施設の目的である障害者スポーツの振興について、更なる充実が図られ、安心して施設利用ができること。
- ・20年度は、近隣の学校耐震工事により一般の利用者数の増加がみられましたが、21年度以降は利用者の減少が懸念されることから、利用者が増加するよう工夫されること。
- ・指定管理者の特性を生かした障害者団体・関係機関等との連携による活性化。
- ・ハード面では、21年度に大がかりな改修・修繕を計画しており、工事期間中は、障害者が安全に利用できるよう引き続き維持管理に努められること。

基本的な考え方（施設の性格・目的等との合致、市民の平等な利用の確保、施設の効用発揮）

合目的性・公平性・効果性

障害者の自立と社会参加を促進し、生活を豊かにするスポーツを楽しむ場を提供するという、施設の目的に沿った実施方針に基づき適切に管理運営が行われていました。施設運営や利用者への対応については、障害者や市民が公平・平等に利用できるよう規定に基づき運用されていました。

19年度に行った午後の貸館時間帯を2つに区切ったことにより、利便性が向上し利用者が増加しました。これにより収入予算を上回る収入がありました。また、管理経費についてはほぼ当初計画の範囲で効率的に執行されていました。

業務内容

機能性・独創性（事業への具体的な取組み方）

指定管理者として障害者利用の観点にたった管理運営が実施されていました。まず、障害者が利用しやすいよう施設の清潔・整頓に努め、危険な利用について指導されておりました。また給茶サービスの実施による利用者との意見交換や、「ご意見箱」の設置、さらに利用者アンケートも実施して、要望や意見の収集に努め、できる範囲のことから速やかに対応しておりました。

また障害者スポーツの普及啓発について障害者団体と連携し、自主事業としてフライングディスクや卓球バレーの教室を開催したり、新たに障害者スポーツ大会を開催されており、評価できるものでした。

責任性・実行性（施設の運営体制や組織）

運営状況については、職員の勤務体制や開館時間を遵守し適切に運営されていました。施設の維持管理についても毎月の実績を市担当課に報告するとともに、適正な管理運営のあり方について職員研修が実施されていました。

明瞭性・規律性（適正な事務や経理）

利用料金の収入や、施設管理費等の支出について適正に処理され、領収書や計算書類及び諸帳簿も整理されていました。施設の保守点検等に関する報告書類も整理されていました。

また、昨年に引き続き、利用者の視点にたった管理が実施されておりました。

建物検査の結果に基づき、指定管理者としての責任範囲について、迅速に対応し、良好な施設環境の維持に努めていました。

安全性（安全管理、緊急時等の対応）

防災管理者及び普通救命講習受講者を増やし、緊急時の体制整備につとめ、個人情報保護についても職員・関係者に徹底されておりました。

また、大規模災害時の地域の一時避難所としての責務を職員間で確認し、懇談会等で周知し、備えていました。

さらに、降雪時のセンター周辺の導線、迂回路の確認など、利用者の安全に配慮されていました。

社会性（環境等への配慮）

不要箇所の照明の消灯などに努めており光熱費削減につながりました。また、障害者利用時には適切な対応がとられていました。

事業収支

経済性

事業収支について前年に引き続き、当初計画より有料利用者の増加により収入増となりました。また、支出においても収支の適正な範囲内で清掃に力を入れ、利用者の視点にたった快適な利用に関する部分への経費投入がみられました。

団体の経営状態

経営の健全性

指定管理者から提出された財務状況について財務諸表等を分析した結果、負債がなく、資産等の増加が続いていることから、安定性も増してきており、特に大きな課題や問題はないと判断しました。

施設概要調書

1. 施設の概要

平成20年度

施設名	四日市市障害者体育センター		所管課： 障害福祉課
所在地	四日市市西日野町4070-1		設置年月：平成15年4月1日 (昭和52年5月29日三重勤労身体障害者体育センター)
設置目的	四日市市障害者体育センターは、障害者のスポーツ振興を図り、その自立と社会参加を促進することを目的とします。		
設置の根拠 (法令、条例等)	四日市市障害者体育センター条例		
施設の概要	設備の概要	敷地面積 (㎡)	2804.00
		延床面積 (㎡)	975.51
		体育室725.76 ㎡、事務室20.98 ㎡、更衣室・便所等228.77 ㎡	
施設の概要	事業概要	開館日 休館日 (毎週火曜日、祝日、12月29日～1月3日) を除く日 利用者 ①障害者及びその付添者 ②障害者の団体 ③障害者のための事業の主催者 ④アマチュア・スポーツ団体 ⑤その他市長が特に認めたもの 利用料金 ①～③免除 午前 午後 夜間 午前午後 午後夜間 ④ 630円 740円 1,160円 1,160円 1,470円 ⑤1,470円 2,000円 2,730円 2,730円 3,780円 他付属設備等 600円	

2. 運営状況

項目	実施計画	実施内容 (事業報告書)	計画対比
開館日数	295日	295日	計画通り
開館時間	日曜日 午前9時～午後5時 月曜日 午後1時～午後5時 水曜日～土曜日 午後1時～午後9時	日曜日 午前9時～午後5時 月曜日 午後1時～午後5時 水曜日～土曜日 午後1時～午後9時	計画通り

3. 利用実績

項目	前年実績	実施内容 (事業報告書)	対前年比	
延べ利用者数	障がい者利用数	1,804人	2,314人	510人
	一般利用者数	2,096人	2,566人	470人
稼働率	平均	74.3%	80.7%	—
	平日	74.7%	84.1%	—
	土日祝	73.5%	74.0%	—

4. 事業収支

(単位:円)

項目	実施計画	実施内容 (事業報告書)	計画対比
指定管理料	4,191,000	4,191,000	0
利用料金収入	120,000	170,384	50,384
収入計	4,311,000	4,361,384	50,384
人件費	3,300,000	3,317,088	17,088
管理費	841,000	858,327	17,327
消耗品費	20,000	12,748	△ 7,252
燃料費	0	0	0
印刷製本費	8,000	2,000	△ 6,000
光熱水費	480,000	459,632	△ 20,368
修繕料	210,000	227,400	17,400
通信運搬費	35,000	34,414	△ 586
広告料	0	0	0
手数料	0	0	0
保険料	53,000	90,330	37,330
委託料	0	0	0
賃借料	0	0	0
その他	35,000	31,803	△ 3,197
事業費 (ソフト事業等)	0	0	0
一般管理費	170,000	187,390	17,390
支出計	4,311,000	4,362,805	51,805
収 支	0	△ 1,421	△ 1,421

平成20年度 四日市市障害者体育センター 運営状況 チェックシート

1. 運営企画

項目	実施計画	実施内容	計画対比	検証・分析等	適否
開館日数	295日	295日	計画通り	計画通り開館された。	適
開館時間	日曜日 午前9時～午後5時 月曜日 午後1時～午後5時 水～土曜日 午後1時～午後9時	日曜日 午前9時～午後5時 月曜日 午後1時～午後5時 水～土曜日 午後1時～午後9時	計画通り		
事業開催	7回	8回	+1回		

2. 利用実績

項目	前年実績	実施内容	対前年比	検証・分析等	適否	
延べ利用者数	障がい者利用数	1,804	2,314	510	障害者の利用が好調だった。また、近隣の学校の耐震工事の関係で一般利用者数の増加が見られた。	適
	一般利用者数	2,096	2,566	470		
稼働率	平均	74.3%	80.7%	-	利用者増加により、稼働率も増加した。	
	平日	74.7%	84.1%	-		
	土日祝	73.5%	74.0%	-		

3. 事業収支

項目	実施計画	実施内容	計画対比	検証・分析等	適否
利用料金収入	120,000	170,384	50,384	近隣の学校の耐震工事の関係で一般利用者数の増加が見られ、利用料金収入増加につながった。	適
指定管理料	4,191,000	4,191,000	0		
収入計	4,311,000	4,361,384	50,384		
人件費	3,300,000	3,317,088	17,088	〔勤務体制：責任者1人、施設の管理運営に支障ないよう配置していた〕 人員配置については、計画通り適正に配置されていた。	
管理費	841,000	858,327	17,327		
消耗品費	20,000	12,748	△ 7,252	不要箇所の照明の消灯などに努めており光熱費削減につながった。	
燃料費	0	0	0	保険料については、予定より行事の回数や規模が大きくなり、金額が多くなった。その分行事への参加者数が増えた。	
印刷製本費	8,000	2,000	△ 6,000		
光熱水費	480,000	459,632	△ 20,368		
修繕料	210,000	227,400	17,400		
通信運搬費	35,000	34,414	△ 586		
広告料	0	0	0		
手数料	0	0	0		
保険料	53,000	90,330	37,330		
委託料	0	0	0		
賃借料	0	0	0		
その他	35,000	31,803	△ 3,197		
事業費（ソフト事業等）	0	0	0		
一般管理費	170,000	187,390	17,390		
支出計	4,311,000	4,362,805	51,805		
収支	0	△ 1,421	△ 1,421		

総合コメント

運営については、平成19年度より貸館時間帯と利用料金の見直しによる利用者の利便の向上が図られており、昨年に続き全体の利用者の増加があった。また、近隣の学校の耐震工事があり、生徒の利用が増え、一般利用者の増加につながった。これにより、予算を上回る収入があった。経費については、ほぼ当初計画の範囲において適正に執行されていた。また、経理関係調書や領収書等の証拠書類については、適正に整理されていた。

平成20年度 四日市市障害者体育センター 運営状況 チェックシート①-2

項目		事業分析	適否判断
利用実績		<p>開館日数：295日 延べ利用者4,880人（障害者利用2,314人、一般利用2,566人）、稼働率80.7%</p> <p>※近隣の四日市工業高校で耐震工事が行われ、一般の利用者が増加したため昨年度実績を上回りました。これにより稼働率も上回った。</p>	適
事業 収支	収入	<p>一般利用者について、近隣の学校の耐震工事の関係で一般利用者数の増加が見られ、利用料金収入増加につながった。</p>	適
	支出	<p>当初計画よりも保険料、管理費（清掃費）、人件費で若干の増加が見られたが、一般利用料金収入の増加が寄与して全体では千円ほどの赤字となった。しかし赤字の内容については、利用者より振動や音などで苦情のあった玄関自動ドアの修繕やマットを交換するなど、施設をよりよくしていこうという姿勢から修繕料が伸びたものである。この赤字については、昨年度の黒字（約1万円）で補える額であり、運営に支障ないと判断している。</p>	適